

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年12月8日

【評価実施概要】

事業所番号	4790800082
法人名	合資会社 あんど
事業所名	グループホーム 浦西
所在地	〒901-2104 浦添市当山2-10-10 (電話) 098-871-1544

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成20年11月18日

【情報提供票より】(H20年8月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 19年 12月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤 6 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 5.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての 階 ~ 2階部分
------	------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 円) 有りの場合 償却の有無		有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	450 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月28日現在)

利用者人数	7名	男性	2名	女性	5名
要介護1		名	要介護2		名
要介護3	3	名	要介護4	2	名
要介護5	2	名	要支援2		名
年齢	平均 86.8 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	浦西医院・名嘉村クリニック・浦添協同クリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームは、国道330号線から1ブロック入った3階建てで「あんど総合介護」事業の一環として、1階はデイサービス、2階にグループホームがあり、3階は高齢者用賃貸住宅になっており、経営者が同一人である。屋上をレクリエーション空間として共有している。グループホームの向かいには住宅で側にクリニック等があり保育所も近い。後ろは農地になっているがホームの建物が高台になっているため行き来は出来ない。国道沿いは大型店舗や店が多く車の往来が激しいが、グループホームへの影響はあまりなく静かである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、スタッフ全員で外部評価について勉強会をもち、自己評価表の作成に取り組むなか、改善をするなど前向きな姿勢がみられた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を2ヶ月毎に開催しているが、状況の報告が主で、うまく運用できていない。具体的にテーマを絞って課題を提案する等、意見やアドバイスがもらいやすい工夫が求められる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議へ参加可能な家族に交替して参加してもらっているが、あまり意見や苦情は聞けない。家族面会時に雑談の中から不安や悩みを引き出し改善に役立てて欲しい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設1年目であるが、自治会や老人会の行事に参加したり、グループホームの行事に参加してもらったりと交流が始まったばかりで、今後さらに交流の場を広げていきたいと積極的な姿勢がみられる。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今回の自己評価で理念の意義を理解し、スタッフで話し合って作成した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	居間の壁に掲示しているが、目立ちにくい場所で、また、理念の具体的実践の取り組みには至っていない。	○	スタッフだけでなく、外部の来所者にも目に付く掲示の工夫と理念の実施に向けたサービスの具体的な共有が求められる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市のアドバイスを受け、自治会や老人会等の催しに参加したり、当グループホームの事業にも参加して貰い交流が始まったばかりである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めての外部評価に向け、全スタッフで自己評価に取り組み、外部評価の意義についても勉強会を持った。自己評価をする中で改善した部分もある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催しているが、現状の報告が主で、うまく活用できていない。今回の外部評価については運営推進会議にも主旨の説明がされている。	○	具体的にテーマを絞った課題を提案し、解決の糸口やアイデアを話し合い、グループホームの活性化に向けた推進会議の活用に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	判らないことや問題が起きると担当者へ相談し、助言を貰うなど連携はとりやすく、改善に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	緊急時は勿論のこと家族の来訪時や支払い時に必ず報告するようにしているが、日常の生活状況(室内や外出の状況等)については大まかな説明になっている。	○	日常生活で感じる個々の暮らしぶりを具体的に話し合うことで家族との接点も深まり、信頼関係やサービスの向上に繋がるのでその機会を多くつくり、有効に活用することが望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ポストを設置しているが利用はあまりない。運営推進会議には家族も交代で参加してもらい意見を聞いている。要望がある時はすぐに対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設後の退職者は1名であり変動はない。人事異動の場合も、同じ建物内の関連事業所との異動になり、日頃より顔合わせをしているのでダメージは少ない。今後は、人事異動の際は1週間程前から関係作りの期間をおくなどの配慮をしていくことを検討している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画は作成していない。市や県の関連研修が開催された時は参加させている。	○	日頃のケアで困っている事を確認しながらの現任研修を充実し、サービスの質の向上を図ることが求められる。例えば、安全管理や感染症、事業所内で発生予測の救急法(誤飲・転倒など)への対応等。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の指導で市内のグループホームの代表者会議があり、意見交換や施設訪問するなど情報交換の場がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に試行期間を設けたり、1階のデイサービスを利用しながら宿泊をするなど工夫がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「介護する側」と「介護される側」という関係でなく、時には親子、祖父母と孫のような家族、先輩後輩のように学んだり支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握が困難な利用者が多いが、ケアをしていく中で得た情報をスタッフで話し合い検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所時に本人や家族等との話し合いをもとに介護計画を立てているが、スタッフとの意見や調整したことを記録として残していない事が多い。	○	現在、定例会議やケア会議が行われていないので定期的な話し合う場を設け、関係者全員が共有した介護計画の作成に取り組んで欲しい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の健康チェックやケア内容や体調等の変化が生じた記録はしているが、定期的なケアプランの見直しや変化が生じた後の介護計画の作成がなく活かされていない。	○	ケアプランを作成する時、評価しやすい具体的なケアサービス内容にし、また、健康チェック等日々のケアを介護計画の見直しの評価に活用するなどの工夫が求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の病院受診の際に、家族の付き添いが困難な場合の送迎や介助の支援、時には理美容への送迎、一階で行われているデイサービスのプログラムへの参加を希望した場合など柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の意向のもと、主治医やかかりつけ医をきめている。家族や医師との情報提供を行い連携体制ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期をグループホームで望む場合、本人や家族・主治医の意向を踏まえてその希望に答えていきたいと考えているが、まだ具体的な検討や準備は行っていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への話しかけや言葉かけにはスタッフ全員留意している。記録等は1階の別室で管理しており、家族の希望がある時は介護記録等の開示をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、食事、起床、就寝、日中の過ごし方は利用者のペースを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	症状が重度の利用者が多いが、皿を並べたり、準備や片づけ、モヤシの根をとったり、おやつ作りなど利用者が出来ることは手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の入浴日が設定されているが、入りたがらない人が多く、声かけをして利用者の希望やタイミングに合わせて行なったり、毎日入るなど利用者のペースに合わせている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	屋上へ行ったり1階の共用スペースへ行ったり、室内でチラシや新聞紙でゴミ入れを作ったりしている。週3回、三味線や踊りのボランティアの方がみえており、利用者が楽しみにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族が外出援助している利用者もおり、ホームとしては2~3人を車に乗せてドライブしたりしているが充分ではない。	○	近くに保育園があり、園児との交流を図るなど、日常的に外出する動機付けをみつける工夫が望まれる。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームのある2階からエレベーターや階段を利用して屋上や階下へ自由に行くことができる。階段へのドア入り口にはベルをつけ、階下はデイサービスの職員がおり利用者の安全に配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	開設して1年目で日々の業務や施設の運営管理体制づくりに追われ、消防訓練等の実施には至っていない。緊急時マニュアルは作成しており、緊急連絡方法はスタッフ全員理解し、火の管理についても充分配慮している。コールボタンを押すと全館と連絡が取れるようになってきている。	○	消防署と連携しての訓練の実施とスタッフ全員での避難方法を話し合い、シミュレーションすることも効果が期待されるので実践して欲しい。運営要項などにも明記しておく意識が繋がり、また、家族や地域への安全の理解が深まると思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェックの項目に入れ、日々のケアの中で把握しており、変化があれば対応出来るようかかりつけ医との連携体制もある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、十分な採光と清潔感が感じられるが、飾り付けや装飾品は行事や季節に関係なく、利用者が作った花やわか等で年中飾っている。	○	誕生日会や行事、季節感を取り入れた配慮が求められる。季節や行事に合わせて利用者と共に作ったり、飾り付けたり、片づけたりなど生活感や季節感を採り入れて利用者・スタッフで変化を楽しむ工夫が望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の壁は、漆喰のような白に近いベージュ色のため施設的である。ベットやタンスは施設で提供し、利用者や家族に使い慣れた物などの持ち込みを促している。孫や家族の写真や絵を貼りたくても貼れない現状がある。	○	壁に貼り付けできるような板を備え付けるなどの工夫が求められる。家族や利用者へもっと具体的な思い出の物、部屋に置きたい物を日頃の話題の中から見つけ出し、居心地のよい居室作りに活かして欲しい。